

設立趣意書

私たちは、河川をフィールドとした自然体験活動が持つ教育的・社会的な価値について強い関心を持ってきました。

河川をフィールドとする意義について、主に二つのことを考えています。

一つは、河川が地域産業や住民の生活の基盤であると同時に、地域の課題が現れやすいところにあります。

日常生活では、水道水の原水としての河川水の利用。水産業においては、サケ・マスの産卵場所としての役割や、山から海への栄養供給。他にも森林の利用や観光資源としての活用など、人々の生活にとって河川が重要な役割を担っています。河川流域についての理解促進は、自分の地域に誇りを持ち、未来を創造する人材を育てることにつながります。

一方で、河岸段丘の利用による河畔林の減少、農地からの土砂や肥料分の過剰な流入、護岸工事による生態系への影響など、人々の生活のために行われている行為が、自然・資源の保護と対立することがしばしば起こります。一つの課題を多角的な視点で捉え、よりよい未来を創るためには、河川流域という俯瞰的な視点を持つことが、重要であると考えます。

河川をフィールドとする意義の二つ目は、自然と対峙し、自らの興味・関心を基に行動することが、子どもたちの自律的な遊びや学びを促進するという点にあります。

水・陸・空が揃う河川では、動物、植物、岩石など、見る・触れる対象となる“もの”が多様化します。水の深さ、流れの速さ、ぬかるむ場所や、陰になる場所などの“環境”の違いについて、体感的に捉えることができます。季節や天気、時間などの“条件”は刻々と変化します。

これらの「もの・環境・条件」が互いに影響し合う自然の中では、興味の対象も、アプローチ方法も選択肢は無限に広がります。

その中から、自ら興味・関心を持ち、「実現したいと感じたこと（課題）」に対し、「自らの意志（仮説）」で「行動（検証）」し、「結果を受け止める（考察）」過程の反復は、無限に続く遊びであるとともに、自律的な探究学習そのものと考えます。

釧路地域には、釧路湿原という広大な自然があり、観光名所にもなっている一方で、地元住民とりわけ子どもたちが、地元の自然に関わる機会が少ないということが、この地域の課題であると考えています。

書籍やインターネット記事、各種機関の発行物など、釧路の自然に関する情報は数多くあります。しかし、地域の自然を愛し、自分事として受け止めるには、身の回りの自然との直接的な関わりや、体験的な理解が必要不可欠であると考えます。

私たちは、本団体を設立し、河川での自然体験活動を中心とした事業を通し、自分の地域のことを自分の言葉で語り、これからの“釧路”を創る人材の育成を目指します。

2022年8月20日

釧路の川探検隊
設立代表者 古野 峻也